

令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃島小学校

学校の教育目標

- ・健康で 明るい子ども
- ・礼儀正しく 思いやりのある子ども
- ・よく考え すすんでものごとに取り組む子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- 基本的な学習習慣及び生活習慣を確立する自律力
- 他者を尊重し、自分の意見や考えを伝えることができる表現力
- 知識・技能を活用し課題の発見と解決に取り組もうとする力

令和4年度「学習力サポートテスト」「全国学力・学習状況調査」の結果や、令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価、児童・生徒の日頃の学習状況等を踏まえ、10月までの授業改善の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	「令和4年度学習力サポートテスト」において、第4学年及び第5学年の国語科全体の平均正答率が区の平均よりもやや下回っている。特に、「書くこと」の領域や「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点のポイントが目立って低い。解答形式別に見ると、「記述式」のポイントが下回っていることから、文章を書いて答える問題に課題があることが分かる。第6学年は、全体的に区の平均を上回っているが、「我が国の言語文化に関する事項」のポイントがやや下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の長さの自分の意見や考え、感想を書く経験の不足がしている。 ・自分の考えや意見の中心となるものを明確にすることや、読み手を意識した文章表現や文字制限などの条件に合わせて文章を書く経験が少ない。
算数・数学	「令和4年度学習力サポートテスト」において、第5学年の算数科全体の平均正答率が区の平均よりも下回っている。観点別に見ると、「思考・判断・表現」のポイントが低い。解答形式別に見ると、「記述式」のポイントが低い傾向にある。第4学年は算数科全体で見ると区の平均よりも上回っているが、図形の領域のポイントが下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を求める公式を活用し課題に取り組むことが多いが、その公式が表す意味について表現する機会が少ない。 ・「基準量」や「比較量」が表す意味の理解やそれらを数直線に表し活用して課題への知識、技能が定着していない。
社会	「令和4年度学習力サポートテスト」において、第4学年及び第5学年の社会科全体の平均正答率が区の平均よりも下回っている。特に、第5学年の生活環境を支える活動の領域のポイントは10ポイント近く下回っている。観点別に見ると、第5学年の「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」のポイントが著しく低い。解答形式別に見ると、第5学年の「記述式」のポイントが低い傾向にある。第6学年は全体的に区の平均を上回っているが、国土の自然などの様子がやや下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を関連付けたり、複数の資料から必要なものを選んだりする活動が必要である。 ・資料から読み取った事柄だけでなく、そこから考えられることを言葉にして表現する体験が不足している。 ・日本の国土や世界の様子を知るために、地図帳を活用する機会が少ない。
理科	「令和4年度学習力サポートテスト」において、第4学年及び第5学年の理科全体の平均正答率が区の平均よりも下回っている。特に、第4学年の「主体的に取り組む態度」の観点のポイントが低い。解答形式別に見ると、第4学年の「記述式」のポイントが低い傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元、領域において必要な理科的な用語をおさえ、その用語を用いて説明させる場の設定やその知識の定着を確認する時間の設定が必要。 ・どのような条件を変化させ、どのような条件を一定にするかな

		ど、仮説と照らし合わせて実験を構想するために必要な知識、技能が不足している。
英語	「令和4年度学習力サポートテスト」において、第6学年の英語科全体の平均正答率が区の平均よりもやや上回っている。しかし、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」の観点及び「記述式」の解答形式においてやや下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・英語と日本語の発音の相違が積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を少なくしている。 ・言語やその背景にある文化について興味が乏しい。
体育・保健体育	「令和4年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「20mシャトルラン」・「ソフトボール投げ」のポイントが低い傾向にある。加えて、男子は「50m走」も低い傾向がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験の差が運動技能の差につながっている。 ・授業内で、話し合い活動や、課題発見、解決をする授業展開を構成することが少ない。

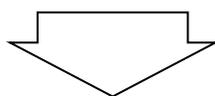
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	「令和5年度学習力サポートテスト」において、「書くこと」の領域や「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点のポイントが区の平均を上回るようにする。解答形式別の記述式のポイントも上回るようにする。
	算数・数学	「令和5年度学習力サポートテスト」において、観点別の「思考・判断・表現」のポイントや解答形式別の「記述式」のポイントが区の平均を上回るようにする。図形の領域のポイントも上回るようにする。
	社会	「令和5年度学習力サポートテスト」において、観点別の「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」のポイントが区の平均を上回るようにする。解答形式別の「記述式」のポイントも上回るようにする。
	理科	「令和5年度学習力サポートテスト」において、「主体的に取り組む態度」の観点のポイントが区の平均を上回るようにする。解答形式別の「記述式」のポイントも上回るようにする。
	英語	「令和5年度学習力サポートテスト」において、「思考・判断・表現」と「主体的に取り組む態度」の観点及び「記述式」の解答形式のポイントが区の平均を上回るようにする。
	体育・保健体育	「令和5年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「20mシャトルラン」・「ソフトボール投げ」のポイントが参加校の平均を上回るようにする。
②授業改善	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央区学習スタンダードを取り入れた授業の計画、実行、評価、改善を各学期に点検する。 ・個別に支援が必要な児童に適した授業改善を行う。 ・ICT機器を活用した授業展開をしていく。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会を定期的開催し、計画的かつ定期的な授業改善を行っていく。学校評価教員アンケート「授業内容」に関する項目で肯定的評価の95%以上を目指す。 ・学校評価児童アンケート「授業内容」に関する項目において、肯定的評価の95%以上を目指す。 ・校内研究でのタブレット端末の効果的な使用方法の研究を通して、教員の授業におけるタブレット端末のICT機器を活用した授業展開例を活用力の向上を図る。 	

③家庭との連携	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や学年の方針、取組等を保護者に伝え、協力体制を作る。 ・タブレット端末を活用し、家庭とのコミュニケーションの充実を図る。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート「保護者との連携」の項目において肯定的評価が90%以上を目指す。
④体力向上	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで体を動かし、運動に親しむことができるような取組を行う。 ・他者の動きのよさを感じ、実践することで、運動への楽しさを実感できるようにする。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「体力向上」の項目において、肯定的評価が80%以上を目指す。

【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の長さの自分の意見や考え、感想を書く活動を多く取り入れる。 ・自分の考えや意見の中心となるものを明確にすることや、読み手を意識した文章表現や文字制限などの条件に合わせて文章を書く活動を多く取り入れる。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を求める公式が表す意味について表現する活動を意図的に設定する。 ・数直線を活用して数量関係を整理する活動を多く取り入れる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を関連付けたり、複数の資料から必要なものを選んだりする活動を多く取り入れる。 ・資料から読み取った事柄だけでなく、そこから考えられることを言葉にして表現する活動を多く取り入れる。 ・日本の国土や世界の様子を知るために、地図帳を積極的に活用する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験をもとに実験結果の予想を立てたり、実験結果を全体で検証したりする活動を多く取り入れる。 ・理科支援員と連携して、予備実験を充実させる。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にコミュニケーションをとる活動を意図的に設定する。 ・言語やその背景にある文化について調べたり発表したりする活動を多く取り入れる。
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動では、サーキット運動を多く取り入れて、体力の向上やものを操作する力を養う。

【取組結果の検証】



学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ノートを用いることで、友達の考えを参考にすることが容易になった。これにより、書く活動を苦にする児童が少なくなった。 ・予備実験を充実させることで、あらかじめどのような実験結果になっても写真を提示する方法でフォローできるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JAMBOARDなどで資料を共有すると、友達の意見を参考にできてしまうため、児童本来の力が見極めにくい。 ・タブレットは思考や判断を育むのには有効だが、知識や理解を高めるためには紙媒体の方が有効である。
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやプリントを用いた学習の場合、思考をやり直す際に消しゴムが必要になる。タブレットを用いると、何度も繰り返しやり直すことが容易になる。 ・発表原稿の理由を長い文章を書く場合、訂正や推敲が容易になる。文章を書くのが苦手な児童も、取り組む際のハードルが下がる。 ・発表ノートの色分け機能を用いると、全体で確認する際に誰がどの立場かを容易に確認できるため、共有がしやすくなり誤解も生じにくくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリなどの操作に慣れている状態であれば、活用が簡単であるが、初めてのアプリやファイルなどの場合、慣れるまでに時間を要する。 ・情報モラル教育に課題を感じる。特に、機能によってはどこまでも可とし、どこまでも不可とするかの線引きが難しい。 ・ZOOMやMEETなどを用いる場合、回線が切れた時にどのように対応するのかをあらかじめ想定しておく必要がある。
③家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルームを通じて、家庭学習の課題を出すことで、保護者が課題を確認しやすくなった。 ・クラスルームを通じて、家庭学習の課題を出すことで、欠席者に課題を配布しやすくなった。 ・クラスルームを通じて、家庭学習の課題を出すことで、ミライシードなどの反復問題に取り組みやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミライシードなどの反復問題といったソフト面は充実しているが、充電忘れやタブレット忘れなどのハード面の問題により、徹底できないことがある。 ・ミライシードなどの反復問題の確認をする際に、指導者が思わぬ時間がかかることにより紙媒体の宿題が優先になる傾向がある。
④体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・投げる運動では、まともや山なりに投げる形になるように投げる物を工夫した。また、投げる際のリズムも工夫した。そのため、投げ方が上手になった。 ・体力テストの際に、兄弟学年で教え合ったり見合ったりすることで、やり方やコツを習得しやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持久力を高める運動に一齐に取り組むことが少なくなったため、持久力の向上への意識付けが薄い。なわとびカードや持久走カードなどを全校で共有するなどの取り組みを再び行う必要がある。